

毛利マークの創業者 毛利岩太郎は、1872 年（明治 5 年）愛知県の七宝村安松に生まれます。七宝村は、七宝焼きの生産が盛んな場所で、岩太郎も 1903 年（明治 36 年）には「第 5 回 内国勸業博覧会」に出品するほどの職人でした。

その後、岩太郎は 1914 年（大正 3 年）神戸に移り住み、三宮の現在地で七宝焼を輸出すべく 41 歳で「毛利商店」を創業します。

なぜ名古屋の職人が神戸で貿易業を始めたのか、今となっては想像するしかありませんが、いくつかの理由が考えられます。



創業者 毛利 岩太郎



七宝焼の煙草入れ

まず第一に、1914 年当時の神戸港は開港 50 年の頃で、海外へのビジネスチャンスを求めて出てくる場所でした。すでに七宝焼は神戸港からの輸出品のひとつとして、国内よりむしろ欧米で人気のある焼き物でした。七宝焼・七宝村の未来は海外にこそあると考え、自ら輸出に取り組んだのではないのでしょうか。

しかし、いくつもある港町のなかから岩太郎が神戸を選んだ理由、それは「造船王・川崎正蔵」の存在ではなかったのでしょうか。美術愛好家としても知ら

れる川崎正蔵は七宝焼にも大きな関心をもっており、神戸の布引山中に七宝焼きの工房を建設、愛知県の七宝村遠島から職人を呼び寄せ、1900 年（明治 33 年）には美術品としての「宝玉七宝」を製作させていました。1914 年ごろには布引の工場は全盛期を過ぎていましたが、それでも近隣に同郷の職人たちが住んでいたのは間違いありません。

おそらく岩太郎は同郷の職人たちを頼りに七宝村を出て、神戸で新たな一步を踏み出したのです。

